

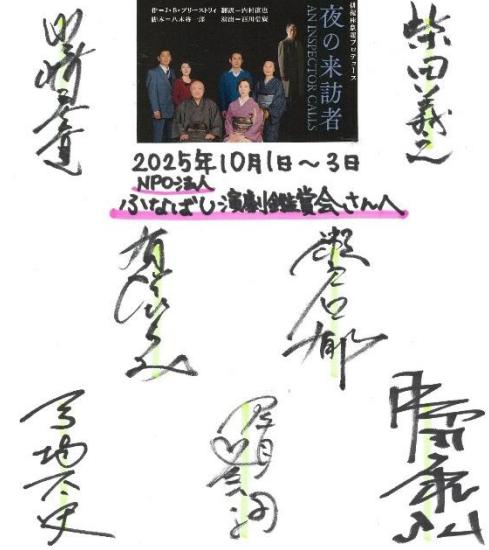
「夜の来訪者」

感想文集

NPO法人 ふなばし演劇鑑賞会



2025年10月1日～3日
NPO法人 ふなばし演劇鑑賞会さんへ



すごく面白かったです！最後まで引き込まれました。警部がいなくなつてから、全員が自分が女性を死に追いやつたことを反省しているかと思いきや、自分の保身しか考えていないことに愕然としました。あの時、全員が反省して女性を思いやつたら、自殺しなかつたのかも、そのことを警部の最後の言葉が表していたと思いました。

（ザッハトルテ 上野 60代）

とても面白かったです。展開もスピーディーで…刑事役も威厳があつて…。

人は1人では生きていられない。色んな人とのつながりの中で生きている。生かされている…。そのことを「こういう形で教わるのが新鮮でした。ありがとうございました。

（亜童夢 伊澤輝美 70代）

すごく面白かったです！最後まで引き込まれました。警部がいなくなつてから、全員が自分が女性を死に追いやつたことを反省しているかと思いきや、自分の保身しか考えていないことに愕然としました。あの時、全員が反省して女性を思いやつたら、自殺しなかつたのかも、そのことを警部の最後の言葉が表していたと思いました。

（ザッハトルテ 上野 60代）

零囲気が「相棒」で出てくる杉下さんに似ている様な感覺もあったので、観て惹き込まれていきました。この劇を通して「何気ない行為や言葉で、人を死に追い込んでしまう事」を改めて実感することが出来たし、「生き方」を問い合わせている所を見て、自分自身も「生き方」について考え直す事も出来たので、自分の中でも貴重な作品となりました。

（フレジャーと元気な仲間たち 新井菜々美 高校3年）

登場人物一人一人の心情が手に取るようにわかつて、本当に面白く、あつたという間に芝居が終わってしまいました。本当にすばらしかったです。素敵なものでした。本当にありがとうございました。

（きげんクラブ 佐藤 50代 女）

休みがなく、最後までイッキに観せてただきましたが、席が後列にもかかわらず、役者さん皆さんのお声が聞こえました。年のせいか、声が聞こえないところの内容がわからず、途中ウトウトしてしまうことがあります。あの警部の存在はだれか？というのに、小学校5年生の方が自殺した女性のお腹の赤ちゃんだったのではと言つたと聞き、すばらしいと思いました。（フォルテンモ 柴山範子）

世にも奇妙な物語のように、最後はゾクつとさせられてとても面白かったです。（ザッハトルテ 八田めぐみ 60代）

今回、「夜の来訪者」という作品を観て、今まで観た劇の中で一番不思議な感じで終わったなと思いました。皆が関わった女性が同一人物の女性であつて、一人一人がやつてしまつた罪を打ち明けた時、反省して罪悪感を感じ生き方を更生しようとすると居れば、結果だけを大事にして全く生き方を更生しようとしない人も居たから、そこで「人との差」が出てしまつているなど観て思いました。

警察の人の演技を見て、迫力が凄かつたのと淡淡と話す時、感情を込めて、声を張り話す時のギヤップが凄すぎて、個人的にとても圧倒されました。

零囲気が「相棒」で出てくる杉下さんに似ている様な感覺もあったので、観て惹き込まれていきました。この劇を通して「何気ない行為や言葉で、人を死に追い込んでしまう事」を改めて実感

そして、裏切られることは無く、感動で興奮状態の終演に盛大な拍手を送った。ありがとうございました。（ガールズ 内藤純子 80代）

休みがなく、最後までイッキに観せていただきましたが、席が後列にもかかわらず、役者さん皆さんのお声が聞こえました。年のせいか、声が聞こえないところの内容がわからず、途中ウトウトしてしまうことがあります。あの警部の存在はだれか？というのに、小学校5年生の方が自殺した女性のお腹の赤ちゃんだったのではと言つたと聞き、すばらしいと思いました。（フォルテンモ 柴山範子）

「影山警部の最後の言葉は、劇中の家族に発せられるというより、私たち一人一人に発せられている」との演出の西川信廣氏の言葉(会報221号)に、岩波文庫のプリーストリー作「夜の来訪者」の翻訳者・安藤貞雄氏の解説でその言葉を確認した。

「わたしたちは、一人で生きているではありません。わたしたちは、共同体の一員なのです。わたしたちは、おたがいに対して責任があるのです。そしてみなさんに申し上げますが、もしも、人間がその教訓を学ぼうとしないなら、かれらは、火に焼かれ、血を流し、苦しみもだえながら、それを学ぶときがくるでしょう」(このことばは、第一次大戦の勃発を予兆している)、と。

警部が去つたあと家族が警部のふるまいの謎を語つているが、自殺者の写真をそれぞれに同時に見せなかつたことなど「なるほど」と思った。

しかし、芝居の進行はそのような謎解きの猶予を与えないほど息詰まるものであった。日本での初演が1951年とのことに驚き、そして長い間演じられていることに納得。けだし名作・名演を堪能させていただいた。

(荒馬 草野高徳 70代)

舞台のセットがとてもステキでした。セットを作成するのは大変ですよね。声もよく通つて熱量が伝わつて来ました。1シーンのみの、とても心に残る作品でした。(メロディ 佐藤明美 70代)

演技すばらしい。・よく長いセリフを覚えた。・母役の着物の着こなし、すばらしかった。最後のあいさつでのお辞儀もきれいでGOOD。・いかんせん脚本が古い。(ストーリー)よく言われていること、よくある話で大げさと思つてしまふ。現代に訴える内容と思えない。もつと新しいテーマを掘り下げた台本を!・ユーモアに笑える部分がないと、現代劇としてはきびしい。

(無記名 60代 男)

ミステリアスで少しコミカルで、あつという間の1時間45分でした。人間は1人では生きていかれない:警部の言葉が重くのしかかりました。

(ザッハトルテ 無記名 60代 女)

とても良かつたと。声も良く聞こえました。(フリージア 藤井扶江 70代)

(ガールズ 細谷 80代)

流れの面白さにひきつけられました。まだ、?の答えを考えさせられていまます。自殺した女の身内かと思つたり。

こういう芝居、とても好きです。世の中には説明の出来ない事もあります。一人の人間の死は、とても重いものだと思いました。面白くて、楽しく、そして考えさせられました。人と人とのつながりは、目に見えないものも含めてたくさんありますね。今の世の中は、逆に行つてているみたい。俳優座劇場の皆様、ありがとうございました。

社会的なテーマのあるお芝居もいいですが、今回のように単純に演劇鑑賞を楽しめるお芝居は、自分の心を贅沢にしてくれるなと思いました。謎の男性は誰だったのか、実在するのか、不思議で怖かったです。(フレジーと元気な仲間たち)

舞台装置、俳優さんのセリフ、素晴らしかったです。一つ一つ明らかになるのを、ドキドキして聴いていました。心に残る舞台でした。

(亞童夢 神原健人 高校3年生)

舞台のドアや窓などがとてもきれいで、一人一人のお芝居がとてもリアルで物語に入り込んでしまいました。サスペンスな演劇でしたが、面白い場面もあって観ていて楽しかったです。最後、影山警部から言われたことが全てうそだったと安心していた所に、女が自殺したと電話があつたシーンが怖いなど思い、鳥肌が立ちました。

昭和のレトロな服装や家具などが、当時の雰囲気を出していて面白いなど思いました。

幸せそうな家族も一皮むけばそれに何と罪深い人々なのかを暴かれ恐ろしいお芝居でした。いや実は自殺者はいなかつたと娘の婚約者の報告に、良かった良かったとまるで何もなかつたかのように安堵する大人の変わり身の早さに呆れ、思わず笑い声も出でしましたが、人間なんてそんなものかも知れない。だからこそラストの怖さは強烈。人間の社会は、私は関係ない・私は知らなかつたとして責任逃れは出来ないので、去り際に残した謎の警部台詞は改めて私に突き刺さるのでした。(炎 渡辺智恵子 70代)

(フージーと元気な仲間たち)

大変面白かったです。目の付け所、主題がいいですね。(華まる 無記名)

鍛冶屋ひな 高校3年

舞台装置、俳優さんのセリフ、素晴らしいです。これから人間はほかの人間全部に責任があるんです。」

こういう芝居、とても好きです。世の中には説明の出来ない事もあります。一人の人間の死は、とても重いものだと思いました。面白くて、楽しく、そして考えさせられました。人と人とのつながりは、目に見えないものも含めてたくさんありますね。今の世の中は、逆に行つているみたい。俳優座劇場の皆様、ありがとうございました。

西山麻弥

交流会でも発言しましたが、私は50年前の昭和50年にNHKの番組での劇を観ておりまして、配役は父親、山形勲、母親、関弘子、娘、関根恵子、婚約者、蟹江敬三、息子、火野正平、そして警部、内田良平というものでインテリヤクザ風の警部役がのらりくらりと一向に引かず、中々の怪演でした。今回その役をどんな風に演じるか目を皿のように注視しましたが、これも何か怖いような演技でした。カーテンコールで「」にして出て来たのには少し安心した程です。役者さん曰く、芝居中手を全く動かさなかつたこと、逆に体をよじつたりしたらセリフが出てこないなど、貴重な舞台裏が聞けました。又、警部役の正体は?というくだりで、一緒に観た小学5年の孫の娘さんが「あれは生まれなかつた子供の靈じやないか」と指摘した事、私などは「胡散臭い人物だ」程度の印象しか持ち合わせず、こういう見方もあったのかと恥じ入つた次第でありました。ライブで良き声、演技の役者さんに接し、こんな感動や舞台裏まで聞けて、本当に「演劇ついいですネエ!」。

次々と明らかになる事実。突きつめられる心理の状況に、惹きつけられてこれでもかこれでもかと、ミステリーの世界に引き込まれました。それぞれの配役の迫力のこもった演技がすばらしかつたのです。

意見として、労働争議の中で、解雇された話の中で「アカでなかつた」という言葉気になりました。アカなら当然という意味なのでしょうか?この言葉おかしくないですか!

（宙 石橋須美江 70代）
全員同じ人物を思い浮かべている証拠はないのに。疑問に思わせなかつた演出が凄いと思いました。

（ルナ 中西洸貴 高専3年）
白熱の演技に圧倒され、とても面白かったです。

今日のお芝居は、とても不思議な演劇でした。このような心理サスペンスは観た事がなかつたので、新鮮な感じで

見入りました。人間の奥底に潜む、心理を練りに練つた言葉で表現されていて、あれ? おやつと最後まで、はらはらしながら観させていただきました。とても満足し、極上なディナーをいただいた様な気分にさせられました。とても贅沢なひと時をありがとうございました。

(パン・バスグラス 遠藤竜子)

まず舞台の豪華さに胸がときめきました。謎の刑事の出現で明かされる事実。不幸な女性を死に追いやった事に心を痛める子ども達と、その真実から逃げたい親。どちらの立場にも自分を見つけます。結論の出ないままに終わつた芝居に、私たちは自由にあとでストーリーを作つて良いのでしようね。

(ガールズ 久藤敬子 80代)

舞台セットがいつもより本格的というか、豪華だったのですごく作品の世界に入りやすくて、今まで観たものの中でも結構好きな作品になりました。

・ミステリーのお話もすごく好きなので、観ながら色々と一緒に推理してみたり、答えがわかつた時になるほどなに面白いと思いました。自分が犯した過ちを誰かのせいにすることは、作品の中だけじゃなく実際にもこういうこともあります。

・この作品は最後の終わり方がこの先の続きは観る人によって考え方が変わってくるから、誰かとその話をしながら帰り道を帰つてたら、絶対楽しいなとも思いました。

(フレジーと元気な仲間たち
池田朱音 高校3年)

一人一人が実はつながつているのだ
ということが良くわかつた劇でした。どんなつながりだったのだろうと、ハラハラドキドキの時間となりました！ありがとうございました。(無記名 60代 女)

最後のシーンでイタヌクかと思つたらの後、どんどん返しがとてもおもしろかったです。

(ガーベラ 奥田和誠 中学3年)

とてもコンパクトにまとまり、楽しめました。
(平間れい子 70代)

奇妙な空気がクセになりました。ドキドキして、安心して、最後ゾクつとして観て良かったです。若い人は感覚が新鮮なんだなあとと思いました。年を取ると、良くも悪くも動じないので、感覚も衰えてゆくんですね。

今まで2年くらい毎回観たが、一番良かつた。引き込まれつ放し。考えさせられた。脚本のすごさをよく演じてくれた。ありがとう。（小畠貢 80代）

迫力があり、集中して観劇できました。すばらしかったです。

(ちびっこ 60代 女)

影山さんが精霊？みたいに思いました。反省しなかつたから、現実になつたのかな？と思います。

娘さんと息子さんは反省し現実に向かっているのに、母、父、婿が向かっていないので、だめなんかなくと思ひます。

(ガーベラ 奥田和佳 小学校6年)

演者さんがとても演技が上手で、自然に話に入り込めました。前半、話がだんだんとつながっていき、全て謎がとけたと思いきや、後半につれてだんだんと疑問が増え、一番最後の現実化(?)で、「一気に話にひきこまれた」。最後のピアノの曲の不気味さが、鑑賞後の後味を独特なものにしていた。(子育てネット 千田帆夏 中学生)

すばらしい演劇でした。しかし、台詞の所でその女性が「赤ではなかつた」とありました。まるで「赤なら首切りをしても良い」というように観客に思われます。時代の設定が昭和15年だからだと思いますが、演劇の台詞も、その時代時代に合わせ進歩していると思います。そう考えるならば、「赤ではなかつた」(だから首切りをする必要はない)「赤だったら」首切りOK! 演劇の台詞も、現代の人々が思考し、学び発展するような脚本・台詞をより考案してほしいと思いました。(無記名 70代)

何が何だか良く理解出来ない。

(YMO 田中弘之 60代)

たつた1時間45分のドラマのなかに、させてくれた「俳優座劇場」のスタッフ・人間の欲望・酒・富・女性問題などがからむ世の中の不可思議さがみごとに

圧縮され、ちりばめられた芝居だった。娘の婚約という目出度い人生の門出流れしていく。はたして影山警部という事件を運んできた夜の来訪者は、本当の警部なのか。倉持家の家族らをねちと警部が一人ひとり問い合わせていくさまは、英國特有のウイットに富む緊迫したおもしろさで、まるで後ろを向いて舌を出している作者が見えるようだ。そのセリフを聞きながら、家族愛・名譽欲そして女性への愛欲などさまざまな欲望が、一步間違えば犯罪につながりかねない人間社会に隠れていることを、観客は嫌でも理解させられるはずだ。

警部の帰つたあと、警部の話がほんとうかどうか確かめの電話を病院などにして確認し、いつたんは安堵するけれど、そのあと逆に警察から電話がかってきて倉持家に来訪すると、安堵が不安にどんどん返しになつて幕は閉まる。真実はどこにあるのか。

原作者は英国人で、80年前にロンドンで初演された古典的な芝居だそですが、戦中の日本人社会の話にすり替えた脚本も違和感なく見事に仕上がつていて、すばらしい芝居を満喫してホールをあとにした。楽しませて考え

きました。(マゴメ ムラタ)

とても面白かったです。

(テラ 高田眞理子 60代)

若い頃に聞いた名の題名でした。

(コルセット 高橋紀子 80代)

音楽が無いのが不気味だった。最後、同じことが繰り返されていて鳥肌が立つた。母が皿をガシャンと落とすのと、中の明かりが消えるのが一緒で恐怖を感じた。そして、あの男は消毒液を飲んで自殺した女だったと思う。

(ゲキ友 中学3年 女)

とても良かつた。これぞお芝居ですね。仮想空間引き込まれました。あつという間に終わつた! これからじつくり内容をつかんで、自分の心の中に問いたいです。警部さん、右京さんのようでした。

(あひるの部屋 中谷 70代 女)



おめでとうございます!

「夜の来訪者」サイン色紙当選者

1533	フォルテシモ	柴山 範子さん
1755	ガールズ	内藤 純子さん
1811	フージーと元気な仲間たち	新井 菜々美さん

※当選した方は申し出てください。



アンケート枚数	45枚	(回収率3.1%)
当日会員数	1,750名	
例会参加者	1,433名	(参加率81.9%)